

マツバラン科 マツバラン属

マツバラン (松葉蘭)

Psilotum nudum (L.) P. Beauv.

の位置づけ
レッドリスト

千葉県



環境省



自生環境

山林、岩場 など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



市内のものは、栽培されていたものの野生化の可能性があります。古くから園芸植物として人気があるため、採集されやすく、それが原因で急速に数を減らしています。

市内の分布状況

林内でたまに見かけます。希少種扱いですが、一方で栽培もされるため、野田市のものが真の自生かどうかは不明です。

自生環境保護のため 場所は非公開です

特徴

- ☆ 山地で木の幹や岩肌にくっつくようにして育つシダ植物です。多年草で、何年もかけて大きな株に育っていきます。体の構造はとてもシンプルで、根や葉はありません。地上に出ている茎は、上のほうで2つに分かれ、それを何回も繰り返していきながら箒のようなかたちになります。根はありませんが、土の中には長くのびる地下茎があります。
- ☆ シダ植物なので花は咲きません。株が成熟すると孢子嚢と呼ばれる丸いプチプチのようなものが茎にたくさんつきます。この中で孢子をつくり、この孢子が拡散することで増えていきます。
- ☆ 本来は山の中に生える植物ですが、観賞用に栽培されることもあるため、そこから飛び散った孢子が芽生えて野生化することもあります。また土とともに孢子が運ばれて、思いがけない場所から芽生えて育つこともあります。

かつては人気植物だった

江戸時代には、斑入り葉や枝変わりなど、本来の姿から大きく変形した「珍奇」な植物のブームがありました。マツバランも枝ぶりや色合いなど多彩な変化を示す株が多く見出されることから人気が高く、『松葉蘭譜』という専門の書物まであったほどです。それには約120種もの栽培品種が記載されており、その多様性と当時の人気ぶりがうかがい知ることができます。



茎は何度も枝分かれして、箒のような姿になる



中で孢子ができる
孢子嚢
ほうしのう

花は咲かず、
孢子で増える



東京都心の
オフィス街に
生えたもの。
植木に
ついてきたと
考えられる



葉は無い



山の岩場に生えたもの。
これが本来の姿

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

